

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第17号 2008年7月

もくじ

巻頭言・理事長就任のごあいさつ	糸井 守
平成20年度活動計画	岩淵 敏男
外環問題について	宇野 哲夫
三鷹市の環境施策の推進について	三鷹市環境対策課長 保谷 幹夫
新会員紹介	林家カレー子
『新老人の会』	藤野 良洋



ヒメコウホネ

巻頭言 理事長就任のごあいさつ

糸井 守

今、私たちを取り巻いている環境は、待ったなしの危機状態に陥っており、個人や地域、国家などあらゆるレベルでの対応が必要であると認識しています。現在の環境問題は複雑多様な相互関係の影響を受けており、一人一人の意識と行動、行政による制度的仕組みづくり、様々な分野・領域での技術開発等による従来の思想・枠組みを越えた抜本的な対応が求められていると思っています。

「環境カウンセラー」制度が10年を経過し、全国の登録者も4500名強になったことは、その持てる知識・経験・ノウハウを存分に発揮すべき時代になったとも言えると思います。環境カウンセラーの横断組織である全国的NPO法人や都県レベルの地域協議会設立など体制的にも整備されてきました。東京地区には現在720名の環境カウンセラーと5つの協議会が存在しています。

私たちMECCは、多摩26市町村とその近隣を中心とする環境NPOとしてさらなる活動展開を図っていく必要性を感じており、次の3点を重点的に進めていきたいと考えています。

- ・カウンセラー間のネットワークを拡大し、啓発・啓蒙・提案活動等の情報発信を促進する
- ・行政機関や他の団体等との協働・連携を強化し、環境活動の高度化・充実化を図っていく
- ・環境問題の総合性（社会・経済・文化等）に鑑み、地域の個人・市民団体等と連携して環境・まちづくり事業を推進する

以上、MECCとして積極的に活動すべく努力して参りますので宜しくご支援ご高配の程お願い申し上げます。



糸井守新理事長。割箸、廃材などの炭化実験中(武蔵野市内)。

平成 20 年度活動計画

岩淵 敏男

平成 20 年度の MECC 事業活動計画は 17 件の活動が各会員から提案され、5 月 8 日の総会において承認されました。

環境リーダー養成講座

昨年からスタートした活動で参加受講生の評価も高い。今年度も継続して実施し、より多くの環境リーダーを養成し、環境活動の輪を広げていく。

自治体の環境都市度ランク付け

新たな活動として、MECC 独自の環境都市評価基準を作成。MECC の視点での自治体の環境に対する取組状況を評価・ランク付けし、自治体や市民に環境啓発していく。

EA21 構築指導

平成 17 年度からの継続活動で、あらゆる機会を捉えて事業者の EA21 構築指導を行い、環境経営に取組む事業者を増やしていく。

区分	名称	内容	参加予定者数(人)	
自主	運営	会報(MECC だより)発行	年 3 回(7 月・11 月・3 月)発行、発行部数 150 部	1
		MECC ホームページの更新	MECC ホームページの更新と作成勉強会の年 2 回開催	1
	活動	環境リーダー養成講座	市民環境活動家を環境リーダーへと育成する。4 月～2 月の間で座学 2 回、実施 6 ヶ月、発表会 1 回実施。対象 15 名。	6
		環境教育	「我が家の環境大臣」プロジェクトへの協力を通して地域での環境教育、取組への広がりを図る。参加者 25～50 人。	3
		自治体の「環境都市度」ランク付け	武蔵野・多摩地区の自治体の「環境都市度」を評価・ランク付けし発表して、市民の環境への関心度を高める。	5
		多摩地区市町村とのコネクティブ事業(CU)	自治体の環境先端事業分析 & 提案レポートの策定。子供の環境教育を実施しアドバイスと優秀者表彰をする。フォーラムシンポジウムの自治体との共催。	1
		EA21 地域事務局東京中央の活動支援と推進(随時)		10
		自治体単位での EA21 構築指導	多摩地区自治体と共同で事業者の EA21 認証推進を図る(関係自治体への説明、事業者向け説明会の開催)	11
受託	事業者への EA21 構築指導	MECC へ依頼のあった個別事業者への EA21 構築指導の実施	11	
協力共催	共催	温暖化防止対策市民シンポジウムの開催	自治体との共催で映画「不都合な真実」の上映会(パネルディスカッション含む)の開催。参加者 100 名。	5
		環境行政に関する研修	環境保全行政の実態、問題点の研修により環境カウンセラーの能力向上を図る。秋開催で参加者 100 名	6
	協力	日野市緑の環境マップづくり	日野市の環境基本計画に基づく実態調査への参加協力。	2
		神田川サミット 2008	神田川ネットワーク主催で行う神田川水系の年 1 回の交流・検討会への参加。参加者 100 名。	3
		神田川の水質調査(15ヶ所)	全国一斉水質調査(6/8)への参加。参加者 30 名(神田川ネットワークスタッフ中心)	2
		井の頭池野菜いかだプロジェクト	井の頭池にて野菜(空芯菜・クレソン)を栽培しながら水質を浄化する会への参加。参加者 25 名位	1
		井の頭池外来魚の調査	ブルーギル、ブラックバスの釣りによる定点観測調査。7～8 月に 4 回。参加者 80 人程度。	3
子供の環境学習(実践)	むさしのこどもエコフォーラムと協力して、イベント・放課後クラブ(武蔵野市ではあそべえ)を通じて児童の環境学習を行う。	1		

外環問題について

宇野 哲夫

はじめに

筆者は環境問題における合意形成に関心がありましたが、外環問題でも合意形成が重点項目の1つになっていますので、外環問題をテーマにその研究を続けています。この研究に集中するため2年間MECCから休会許可をとり総会だけに出席させて頂いておりますが、1年経ちましたので総会でも表明した通りその一部を少しずつ報告させて頂きます。今回は今進めている「地域課題検討」がなかなか進まないことについて述べることにします。

外環とは

外環とは環八道路の西方約2kmの位置に建設しようとしている外環道路のことで、沿線7区市の住民と事業予定者である東京都、国交省とが既に6年間も協議を続けています。昨年4月に都市計画変更が決定され、12月に国幹会議で建設が承認されました。いまは次のステップ「事業化決定」に向けて地域課題検討を進めているところです。

地域課題検討

この作業は次の通りです。

(1)外環沿線ではどの様なまちづくりが想定できるかを住民サイドで設定する。

(2)このまちづくりと外環との不整合を洗い出し、課題としてリストアップする。

(3)この不整合を整合させる見通しを立て、事業化決定に持ち込む。

この検討会は世田谷区、練馬区、狛江市では既に始まっており外環ホームページでも報告されています。中央道JCTの大部分は三鷹市にありますが、調布市、世田谷区との境界にあるため、三自治体の調整に苦慮している様で、未だに検討会が始まっていません。3つの自治体が1つのJCTの在り方を共同で検討するとは日本人の最も“不得意”な形態で、環境問題ではよくあることです。以前、「統合型エネルギー回収システム」で省庁が幾つも絡む話をしたことがあります。20年以上も前に「琵琶湖水資源プロジェクト」で同じ原因で散々苦労した大阪大学の教授がいて、その対策に関する論文があります。環境問題の世界ではその対策は必須事項の筈ですが、その後殆ど見かけません。外環問題ではその対策の中央道JCTへの応用を提言しています。今回はその内容を報告させて頂きます。(つづく)



三鷹市の環境施策の推進について

三鷹市環境対策課長 保谷 幹夫

環境問題は、大気汚染や騒音・振動、生活排水による水質汚濁、近隣騒音などの都市・生活型公害から、資源・エネルギーの大量消費、緑の減少や水循環の障害などの問題に至るまで、複雑・多様化してきています。また、地球温暖化やオゾン層の破壊など、地球規模の問題にまで広がり、その影響は次世代に及ぶ深刻さを増しています。

こうした状況のもと、社会経済活動や国民の生活様式のあり方を含め、便利さや快適さを維持しながら、しかも環境への負荷を低減し、持続的発展が可能な社会を実現するための取り組みが求められています。

三鷹市では、環境基本計画が平成14年の策定から5年を過ぎたため、現在の社会情勢などに対応するため平成19年3月に改定を行い、行動指針や目標を見直し、取り組むこととしました。改定計画の中では、3大プロジェクトを掲げ、市民、事業者、市が協働で取り組むこととしています。

プロジェクト1は、「環境保全意欲増進・拡大プロジェクト」、プロジェクト2は、「温暖効果ガス排出量徹底削減プロジェクト」、プロジェクト3は「快適環境空間創造プロジェクト」を掲げています。

また、市民、事業者の方の参加により計画を推進する組織として「三鷹環境活動推進会議」を平成19年8月に立ち上げ、市と協働で計画を進めるための活動に取り組んでいます。

三鷹市では、公共施設の省エネルギー対策事業(ESCO事業)などを実施し、ISO14001の認証も取得してきましたが、環境問題は、行政はもちろん、市民、事業者や各種団体の方々が一緒に取り組みを進めることが必要です。

これからも、三鷹市の環境施策の推進にご協力をいただき、よりよい環境の実現にご協力いただけるよう、お願い致します。

● 新会員紹介 ●

『子供達からの借りもの』 林家カレー子

昭和62年、数少ない全盲の老人ホームへの慰問！そこで「人間笑いたくない人は誰もいない、皆笑いたい！」という衝撃的な言葉を聞き、その場で夫と漫才を組むことに決めた。

さっそく日本から一番遠いブラジルへの慰問の話が・・・交通費は自前、貧しく痛かったがガンバって二人で参加した。行って良かった。お金で換えられない貴重な体験が身に付いた。帰ってすぐ、全国の高齢者の下へ漫才を交通費のみで“出前”した。持ち時間は一時間以上！NHKのニュースにもなった。一人でも多くの人に喜んでもらいたかった。

このエネルギーが平成4年に環境へ向かい“環境漫才”の誕生となった。この頃はエコロジーといっても“？エロジジー”と間違えられた。今、エロジジーと言うと世間の方は“エコロジー”と聞く。それほど環境問題は深刻な問題になってしまったのである。“地球は親から貰ったものではなく、子供達から借りているものだから”ケニアの諺である。そのための人生を送りたい。



(林家ライス・カレー子さん 右がカレー子さん)

『新老人の会』 ～日野原重明氏の記事から～

藤野 良洋

聖路加国際病院理事長・日野原重明さんの記事から、「新老人の会」を発足させた目的等をご紹介します。氏は95才を超えてなお現役の医者であります。

～若い世代のモデルになろう！！～

高齢者が社会のお荷物であるかのような印象ばかりが喧伝されて「少子高齢化社会は大変だ、大変だ」と騒がしいこの頃に一石を投ずるため私が「新老人」という新しい言葉を提唱したのは00年9月であった。

自分が85才になった頃から、元気な老人像をアピールするには、健やかに生活しているモデルが必要と考え、老人の定義を変えたらと思うようになった。今では法律用語から「老人」という表現は抹殺され、「高齢者」と呼ばれている。

なぜ厚生労働省が「老人」呼ばわりを改めたかと言うと、文部科学省にも大きな責任があるが、日本では「老」の字に悪い意味しか教えてこなかった。例えば「老廃物」「老醜」という悪い付加語をつけたため、「老」のイメージが汚れたと思われる。

もともと中国や日本でも昭和初期までは「老」とは非常に尊敬された用語で、長老とか中老、老師とか老練、老舗という言葉がある通り、人生の先駆者としての尊敬の念が込められていた。

65才位を過ぎたら未だ元気な人は今までとは違った方面の仕事をするか、ボランティアの仕事

を選び、運動を続け、趣味を現役以上に楽しむ事を薦めたい。そのような75才位以上の素晴らしい老人をモデルとして若い人が社会・会社・家庭において励む事が、健全な日本の発展の礎になる。

75才位以上の心身共に健やかに生きている人の姿を65才位以上の方が目指して励む。65才位以上で健やかに生活しているモデルを40、50才位の方が真似る。このようなモデルになれる人々を「新老人」として、学習や運動や趣味や経験を生かした社会貢献活動を互いに深め、子供たちに人間界、自然界を問わず、平和を教える老人になる事を期して「新老人の会」を発足した。

「新老人の会」は今や全国に20ヶ所の支部やランチを作り、相互に連携して学習活動を続けている。スタートに当たり掲げた4つのスローガンは、

- (1) 愛し、愛される事
- (2) 創める（はじめる）事
- (3) 耐える事
- (4) 世界平和について子供に（この世に生けるもの総ての）真の命について教える事

子供たちも（その親たちも）この元気な老人を見てモデルとするよう、颯爽として生きている老人を尊敬する世の中にしたい。『子供は皆が通って来た路、老人はこれから誰もが通る路である』

発行者：NPO武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局

180-0003 武蔵野市吉祥寺南町 3-31-16

：0422-45-0352 FAX：0422-45-0353

ホームページ：http://www.mecc.or.jp/